





おネプ!

「放送と青少年に関する委員会」は「おネプ」  
に対し「のそきを肯定している」などの見解を示  
し、テレビ朝日は同番組の放送を見合わせるこ  
とに決めた。本来は女の子のパンチラではなく、ネ  
プチューンの素人いじりを楽しむ番組だと思う  
だけどなあ……。

「こういうのは、インターネットでウエブページを作って、そこでやるもんだろ」というツツコミがあるかもしれない。たしかに、インターネット全盛のこの時代に、こんな紙でできた雑誌なんか時代遅れかもしれない。印刷製本代もメチャクチャかかる。でも、本誌はこんな紙媒体のミニコミ誌にこだわりたいのである。

考えてみると、ちよつと前までは別の方法（メディア）で行われていたことが、今や何でもかんでも、インターネットで、ということになっている。個人が作るウエブページなんかは、まさに紙媒体でいう同人誌だし、小説なども、出版社や書店を介さずに作家がみずから配信するといったことが試みられている。紙媒体だけではない。従来、レコードやCDという形態で提供されていた音楽、ビデオやレーザーディスクで見えていた映像なんかも、まだ容量などの技術的な課題はあるものの、近い将来インターネットで送信可能になるだろう。

インターネットに限らず、各家庭を結ぶネットワークのようなものもつと発達したら、文字や映像や音楽を、紙やビデオテープやCDといった具体的な物質にのせて配付するのは「ダサい」と言われるかもしれない。

それでもやはり、本誌は紙媒体のミニコミ誌にこだわりたいのである。

これは、時代の流れについていけずに古い価値観にしがみつくと老人のときタワゴトではない。

仮に、ウエブページを作って本誌の内容を流すとして。そこにはいくつかの制約が加わる。レイアウトも崩れてしまうし、使用する文字も限られる。だいたい縦書きができない。でも、



本誌としては文章や写真を読者にこんなふうに見せたいという意図があってレイアウトしているのだし、パソコンのモニター上に表示される味もそつけないカクカクした文字ではなく、ひらがな独特の美しい曲線を持った文字を使いたいのだ。

「それって曲線フェチじゃん。まあ、いやら

しい！」

と思っではないかん。さつき音楽がCDなどの形で提供されなくなると書いたけども、たとえばCDアルバムを作っているミュージシャンは、曲と曲の間を何秒にするか、コマ何秒かまでこだわっているという。ようするに、インターネットのようなメディアが発達すると、文字や音楽や映像など、作品の何が変わるのか、ということだ。

本誌は「制作者による作品の管理可能性」だと考える。文をどこで改行するか、どの記事をどのページで読ませるか、ポータルをどのくらいのボリュームで聞かせるか、画面をどのくらいの大きさで見せるか、などといった制作者のコダワリが、作品を受け取る側ではなく制作する側によってどこまで制御できるか。その問題ではないかと思うのである。文章だろうと音楽だろうと映像だろうと、受け取る側が好き勝手に改変できるものは、もはや「作品」ではなく「情報」なのではないか、という気がするのだ。といっても、本誌は別にネットによる配信を否定しているわけではない。「情報」を送るには実に有効な手段だと思う。要は、ケースバイケースということだ。それに「制作者のコダワリ」なんて、時代が進めばどうでもよくなるかもしれない。本誌もパソコンで作っているわけだし。ウエブページを作る予定だつたりするし。

# 真夜中の仮面批評会

3792

そっちかい！①  
そっちかい！②  
巻頭脱力コラム

おろ？



313028262524222120191817161412108

新世紀を迎えてわかったSPEEDの本当の意味  
最優秀ホラー女優賞は菅野美穂でキマリでしょう  
特撮怪獣映画の最高峰『ガメラ』シリーズを再考  
近ごろホラーアドベンチャーが豊作でございます  
遂に真打ち登場！日本製ホラーの原点、鶴田法男  
芸術としてのホラーを築いたタリオ＝アルジエント  
21世紀の興隆を予感させる日本製ホラーの魅力  
この世で最も恐ろしいのは女の情念だとわかった  
もちろん、ホラー小説にも傑作はそろっているぞ  
次々と映画化される貴志祐介の小説の魅力とは？  
みんな、よしりんの『戦争論』を憶えているかい？  
こんな時代だから水島先生に注目なのだ！  
生と死の境界を彷徨う人々は救済できるのか？  
今、学校がどうなっているか、作品から探ろう  
『買ってはいけない』を買ってしまった者の悲劇  
深夜の通販番組の正しい楽しみ方を教えますよ  
深夜番組にも観るべき傑作はけっこうあるのですよ

# ぎゃん

表紙作画：米田政行（人）＋金田憲生（背景）

参考資料：『ガールポップ』39号（ソニーマガジンス）

『旅のガイドムック27 ドイツの本』（近畿日本ツーリスト）

テレビで情報を集めるならこの番組を観るべし！  
 テレビで日本の音楽事情を知りたいならこの番組だ  
 うーむ。時代はやっぱガールズ・ポップスか？  
 新田ギヤルたちの生きかたから人生を学びましょう  
 新田ギヤルたちの恋しかたから人生を学びましょう  
 性の敗北者たちの悲しみと苦しみを知るがいい  
 テレビ番組の中で恋愛はどのように扱われるのか？  
 DCの命運を賭けた大作ソフトはどうだった？  
 ホントにそれで良かったのか、ドリームキャスト！  
 三池崇史はなぜ傑作を“大量生産”できるのか？  
 矢口史靖はめぐるめく幸福と不幸の嵐が吹き荒れる  
 虚構と現実。どちらの世界で過ごす方が幸せ？  
 本誌が選ぶもうひとつの女優賞を発表しよう  
 見よ！これが真の表現者たちが苦悩する姿だ

フルハウスで英語のお勉強！

「人権」の正しい使い方

命って大切なもの？ ● 平山雄三

児童ポルノ法でエロ本はどうなる？ ● (一) / (一)

AV女優&監督の涙と笑いのイベントレポート ● (一) / (一)

アメリカ南部を旅してきた ● 田中海太郎

63

短編ホラーアクション

異食獣

次号予告

執筆者紹介

ニヤンニヤカニヤ

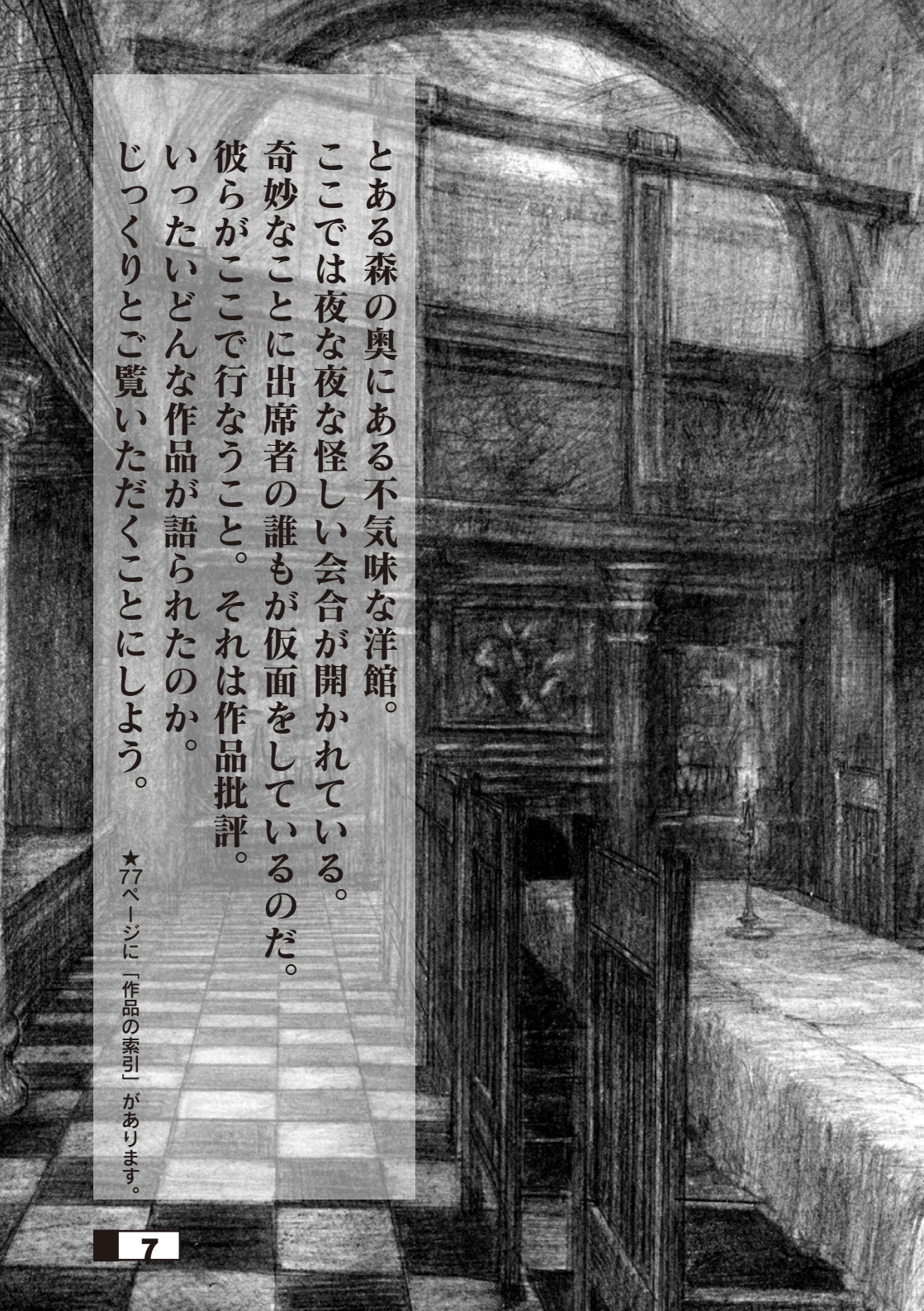
作品の索引

ぎゃん工房日誌

# 真夜中の 仮面批評会

— 〇〇作品 — 拳批評





とある森の奥にある不気味な洋館。  
ここでは夜な夜な怪しい会合が開かれている。  
奇妙なことに出席者の誰もが仮面をしているのだ。  
彼らがここで行なうこと。それは作品批評。  
いつたいどんな作品が語られたのか。  
じっくりとご覧いただくことにしよう。

★77ページに「作品の索引」があります。

# 新世紀を迎えてわかったSPEEDの本当の意味

解散から半年以上も経過してからビデオクリップ集が発売。その意味は新世紀になって初めて判明した。

## SPEED

### ☆001☆ 世紀末の表現者たちが 示した新世紀の道標

SPEED最後のシングル「Long Way Home」のビデオクリップをまず観てみよう。無機質な宇宙船を思わせるセットの中で彼女たちが歌い、窮屈な空間を移動するカメラがそれを捉える。最初はあまりにも自然なので気づかないかもしれないが、カメラがどこを向いても彼女たちの姿がある。つまり合成だ。ただし、カメラは常に移動し、最初から最後



▲「Carry On my way」

まで一度もカットが切り替わらない。つまり、カメラをコンピュータで制御し、セットの中を何十回と同じ軌跡で移動させているのだ。もちろん、その動きは曲に合っていないければならない。さらに被写体も、カメラの動きに合わせて正確に体を動かすことが同じ回数だけ要求される。すなわちこのビデオクリップは、歌と踊りと楽曲とカメラワークが高度な技術で完璧にシンクロしている瞬間なのだ。SPEEDとは、視覚と聴覚を有機的に連結させメッセージを発信する人たちだったのである。では、その「メッセージ」とは何か？ 登校拒否をしていた少女が彼女たちの言葉を聞いて学校へ行くようになったという事実が象徴するように、生きることに喜び、人生讃歌だ。なにしろ生命力あふれる肉体で訴えかけているのだ。これほど説得力のある応援歌は他にない。それでは、「がんばって♡」といくら言われようががんばれない、もがけばもがくほど絶望の海に沈んでいく人は、どうするかの。「いつかたどりつけるよ」と、今の自分であることが希望の光になり得るといふ連観。世紀末に彼女たちが発したメッセージは、新世紀の道標として輝いているのだった。

## 今井絵理子

### ☆002☆ Eiko with Crunchと 今井絵理子の微妙な違い

世間で持たれていたSPEEDのイメージは生命力の塊のような歌と踊りで人々を元気づける。解散し  
▶ [In the Name of Love]



た後そのイメージを体現したのがEiko with Crunchだ。もう、ひたすら前向きに人生を謳歌する。過去を振り返ってはならない。伊秩サウンドに乗って未来だけを見つめよう。では、なぜここへきて「今井絵理子」として単独行動をこなすのか。それは、自分を見つめ直すためだ。先を急ぐあまり傷ついた自分を再点検する。しばらく翼を休めたら、また飛び立てばいい。それがえりちゃんのメッセージなのだ。



# 真夜中の仮面批評会

世を指し示す天使。世紀末に受けた傷を癒してくれる天使の歌と踊りで魅せてくれるhit。\*



まだケツの青い小学生の女の子が、巨一杯メイクしておじさんたちに媚びていた『BODY & SOUL』の頃のイメージを考えると、なんと立派に成長したことが。しかもだ。真子の歌といえば、愛しい人に自分の想いが通じないもどかしさを嘆くのも、失恋した悲しみを訴えるのもなく、最初のシングルでは『AS TIME GOES BY』などときた。時の流れるま自身をまかせましようというのだ。肉体・精神ともに「イイおねえさん」に変貌を遂げた新世紀のhiroは、今井絵理子が担わないSPEED時代のもうひとつの役割を負う。そう。今の自分を愛で、現在の幸福を喜ぶことだ。未来へ突き進んでいるだけでは見逃してしまっ幸「BRILLIANT」

hiro

## ☆ 003 ☆

新世紀のhiroは  
世紀末の傷を癒す天使

## ☆ 004 ☆

あくまでも美形がウリ  
歌唱力は二の次なのです

上原多香子

99年の大ヒット

曲「だんご兄弟」を最初に負かした歌手は、誰かご存知だろうか……つて、上原多香子が正解なのはバレバレ。時間の問題ではあったが、あのモーニング娘。も勝



▲ [my greatest memories]

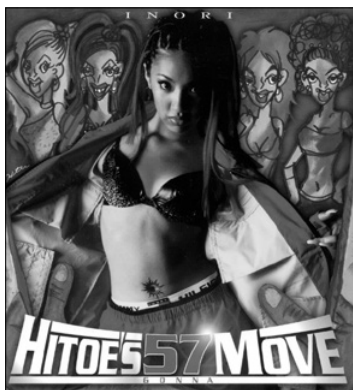
てなかつたタンゴ風情を破つたのは、実は多香子ちゃんだったのだ。では、歌がそんなにすばらしいのかというと、これが全然お話にならない。曲そのものは、本人の歌唱力に合わせて簡単なものにはしてあるのだから（下手をすれば手抜きですぞ）、しよせんSPEEDにおいてはポーカーではなく美人担当にすぎなかつた多香子ちゃん。とても、聞いちゃいられない。プロデューサーが伊秩弘将だったらぶん許されません。とはいっても、hiroやえりちゃんの言わば挑発的な歌声とはちがって、下手つびながらも透明感のある声は、荒廃ムード漂つ21世紀初頭に生きるボクたちの耳には心地よい、と言えなくもないのだが。

## ☆ 005 ☆

黒人音楽のSPEEDは  
仁絵ちゃんだけが正しい

HITOE'S 57 MOVE

「SPEEDの中にひとりだけSPEEDじゃない人が混じっているぞ」などと巷では悪態をつかれたこともあつた新垣仁絵ちゃん。SPEEDの音楽性は黒人のそれに基つているのだが、よく考えると、それをちゃんと表現していたのは仁絵ちゃんだけなんだよな。ということとは、つまり仁絵ちゃん以外の3人こそがSPEEDじゃないことだ、本来ならば。てなわけで、この「INORI」は伊秩プロデュースだけあつて、仁絵ちゃんの本領発揮。歌唱力はhiroやえりちゃんには劣るものの、ダンスの方は10年以上というキャリアの重みを感じさせてくれました。



▲ [INORI]

# 最優秀ホラー女優賞は菅野美穂でキマリでしょう

ホラー映画の中では、本物の力量を見せつけてくれる超一流女優の菅野美穂。彼女の出演作を批評する。

## 催眠

☆006 ☆  
正のイメージを持つからこそ負の役ができるのだ

普通の人々が、ある日まったく唐突に次々と自殺してしまう。「ミドリ」の猿」という謎の言葉を残して……。ここで菅野美穂は、物語の鍵を握る不気味な女性を演じる。もちろん、物語だけでなく、映画の鍵も握っている。菅野美穂の役は多重人格の女性だ。ときに妖艶な女、ときに精神に異常をきたした女性、ラストは人間であつて人間でない存在という複雑な役柄を見事に演じて分けている。まさに現在の日本で考えうる最高のキャストイングであり、彼女の存在がなければ、この作品も凡作にとどまっていただろう。

菅野美穂がホラー女優として卓越しているのは、役の多重性を演じることができからだ。ホラー映画以外の作品では、怪物でない等身大の女性も演じているし、バラエティー番組にも出演している。多くの人が抱く彼女のイメージは、正のベクトルを持つものだ。ホラー作品で、本来なら負のベクトルを持つ

役を演じる時にも「正のベクトル」が底流にある。この正負の相乗効果で、深みを持った演技ができるわけ。たとえるならば、お汁粉の中に隠し味として入れるひと掴みの塩、左右に大きく揺れる振り子といったところか。

▲夜になると妖艶な女性に変身する。妖しい魅力もバツチリだ。



ところで、ホラー映画としての本作品は、惜しいことに、あまり怖くない。菅野美穂の異常性は観ているものに不安を与えるので、その意味では「怖い」のだが、彼女の異常性だけが際立って、物語の方は因果関係がよくわからないのだ。その不条理さを恐怖の要素にしているのかもしれない。それにしても、無邪気すぎると思っただが。

☆007 ☆  
女性監督らしい大胆さと繊細さが魅力のホラー

## エコエコアザラク

女性の監督だからといって特別視するのはまちがっているかもしれない。究極的には、監督それぞれの個性であるはずだから。でも「やっぱり女性の作品だよなあ」と思わずにはいられない作品だ。墮天使ルシファーを召喚するため、同級生たちが生贄として無残にも殺されていく。頸動脈を切断して血が噴水のように吹き出すなど、残酷なシーンも多い。しかし、

▲ラストの菅野美穂に注目。



暗い淵の中に突き落とされるような嫌な気分にはならず、観ているところがいい。大胆かつ乾いた残酷性が魅力だ。また、レスシーンも妙にエロチック。女性ならではの繊細さを兼ね備えた作品でもあるのだ。

★ 008 ★

### 十分に冷却された菅野美穂の演技が秀逸

及川中監督の映画には、温度がない。『日本製少年』では、都会の街並みを持つ冷たさや、人間関係の冷やかさを独特の冷却装置によって描いて見せた。本作品では、首だけになっても生きている女「富江」に魅せられた男たちが次々と殺人を犯していく。首を刎ねるときに飛び散る血さえも、及川中にか



▼特殊メイクとして怪物を演じている。

かると温度を持つていない。直前まで体内を流れていたはずの血液があたかも氷水のように。全編を通してこの冷たさは持続する。画面のなかで展開する世界全体がまるで冷蔵庫に入れられているかのようだ。登場人物たちも血の通った

人間には思えなくなっていく。

菅野美穂が演じるのは、もちろん富江だ。「首だけになっても生きている」という一点を除けば普通の女である。普通どころが、劇中の男たちが次々と彼女に魅せられていくほどの美貌の持ち主なのだ。ここでは「催眠」とは逆に、表が「正」、裏が「負」になっている。「正」の顔を持つた彼女も、ひとたび及川中の映画に入り込んだら、一気に冷却されて、裏の「負」の部分が画面を支配することになる。映画の中で、菅野美穂は特に奇異な行動をとるわけではない。話し方も普通だ。怪物性は全く強調されない。だが、普通の振る舞い、普通のしゃべり方が、「普通」であるがゆえに、観客に恐怖心を植え付ける。顔が笑っているも、心が笑っていないとは限らない。いや、富江の場合、絶対に心は笑っていない。氷のような彼女の精神が観客に突き刺さるのだ。

ホラー映画で真の恐怖心を喚起するのは、表面的な行動ではなく、人間の歪んだ精神だ。「首だけになっても生きている」のは非現実的で、単なる舞台装置にすぎない。だが、富江の精神は、現実社会の人間にも宿ることは十分あり得るのだ。殺人などの残酷表現に心惹かれながらも、背後にある精神には嫌悪感を覚える。この相反する感情が拮抗することで、本作品の恐怖は成り立っている。当然、菅野美穂の二重性によるところが大きいことはもはや言うまでもないだろう。

★ 009 ★

### 怪奇現象は過去の番組の中に腐るほどあるはず

UFOや幽霊といった怪奇現象を科学的に解析する番組。従来の番組が、これらの現象は存在するという前提で「ヤラセをまじえて」制作されていたのを考えると、かなり良心的な番組といえる。見せ方もさすがにゴールデンタイムの番組だと感心できる。ただ、問題はそれまで自らの電波で流してきた怪奇現象に対してどう落とし前をつけるのかということだ。ありもしない現象を視聴者をだます形で放映してきたのは日本テレビではなかったが、まあ、過去のことには水に流すとしても、この手の現象を検証するのに最も適した材料は、かつて放映した

番組の中にあるはず。いわゆる怪奇現象は現実世界ではなく、テレビ番組の中という虚構世界にて最も頻繁に発生していたのだから、説得力を持たせるには自省も必要だ。

▲菅野美穂は普通の人間の役です。



# 特撮怪獣映画の最高峰 『ガメラ』シリーズを再考

もはや「ハリウッドを越えた」という表現が失礼な日本映画の傑作『ガメラ』シリーズの魅力を再検討する。

## ガメラ3 邪神〈イリス〉覚醒

### ☆010☆ 怪獣の出でくる恋愛映画 これからの怪獣映画の姿

ヒトコミが嫌いなのであまり行かないが、この作品を観るために、めずらしく映画館に足を運んだ。特撮怪獣映画の場合、映画館と家庭では、当たり前だが迫力が全くちがう。「人知を越える巨大な力に蹂躪される人類」というのが第一作から続く特撮のテーマだが、今回はそれがさらに追究されて、巨大怪獣の足下で無残に踏みじられる人間たちの姿がこれでもかと言わんばかりに描かれている。それは主人公たちも例外ではなく、怪獣どもに極限まで接近したヒロインたちが、戦闘に巻き込まれ負傷する。前作までとは異なる点だ。「ハリウッドを越えた」という言いかたがあるが、この作品の場合そもそも立脚点が違うといふべきだろう。いたずらにリアルさを追い求めるのではなく、どうすれば怪獣が魅力的に見えるのか、どうすれば映画としておもしろくなるのか、ということに徹底的にこだわった画面づくりがなされている。卓越

した演出センスとそれを忠実に実現するスタッフ諸氏の技術力には感服するばかりだ。

さて、この特撮部分は、まあ誰が観ても文句のつけどころのない代物だが、本編や物語の方はどうだろう。話がちやちやとしてわかりにくいという批判もあり、人間関係がめちやくちやという指摘もある。たしかに、怪獣と人間の二層で対立が生じているうえ、ガメラの起源を探るなどミニストーリーの要素も絡んでいる。しかし、多少の矛盾や消化不良は作品を観賞した後に論議的に考察することによって生じるものだ。観ている間は、特撮部分の迫力や、ストーリー展開の勢いを享受してもらおう、というのが監督の意図だったのではないか。

さらに、この作品はあくまでもシリーズの3作目ということに注意してほしい。1作目



なら無邪気に怪獣の出現を描けばよかつた。2作目も前作でやり残したことを消化すればいいだろう。では3作目はどうすればいいか。どうしても、それまで築いてきたものを一度壊してまた作り上げるという作業が必要だ。そこで本作品で提示された「怪獣の出でくる恋愛映画」という方針。これが成功かどうかを問題にすべきなのだ。主人公の少年が活躍しないのも、心に傷を負った少女を精神的に癒すのが少年の役目で、肉体的に助けるのはガメラだから、と理解すればすっきりする。

# 真夜中の仮面批評会

貴く姿勢だ。  
のが注がれてい  
のシリーズを  
現することに力  
り前の真実を表  
だという、当た  
てもなく巨大  
様で、怪獣はと  
これは特撮も同  
く、怪獣はと



の、か、といった  
細かい疑問まで  
きつちりと消化  
されているのだ。  
これは特撮も同  
く、怪獣はと  
てもなく巨大  
だという、当た  
り前の真実を表  
現することに力  
が注がれてい  
のはシリーズを  
貴く姿勢だ。

▲このころはよくできたミニチュアという感じはする。

## ガメラ 大怪獣空中決戦

★011★  
『ガメラ』シリーズは  
大人だからこそ楽しめる

もしも、日本に怪獣が現れたら? という

荒唐無稽な、しかし魅力的な問いかけに対し、

演出・脚本・特撮が三位一体となつて、子供

ではなく大人も納得する形で回答したのが

ガメラシリーズの第1作目だ。とくに脚本は

秀逸で、なぜ怪獣は人間を襲ってくるのか、

そもそも怪獣とは何なのかという、これまで

の怪獣映画ではおざなりにされてきたテーマ

に真摯に取り組んでいる。さらにはたとえ

ガメラは物語終盤、火球を吐いて相手の怪獣

を撃退するが、なぜそれを最初から使わない

のか、といった

細かい疑問まで

きつちりと消化

されているのだ。

これは特撮も同

く、怪獣はと

てもなく巨大

だという、当た

り前の真実を表

現することに力

が注がれてい

のはシリーズを

貴く姿勢だ。

★012★  
ガメラ2 レギオン襲来  
自衛隊のカッコいい活躍  
が見られる『ガメラ2』

この日本に怪獣が出現

した場合をシミュレート

したのがガメラシリーズ

だ。とはいえ前作のころ

は情緒的だった。しかし

本作では自衛隊の本格

的な登場である。共産党

の機関紙『赤旗』などで

は猛烈に批判されたら

しいが、もちろん日本の

軍備を増強すべしなどと

主張する意図が本作品に

イイぞ。

あるはずもない。冷戦時代にはなしえなかつ

た、イデオロギーとは無縁の、娯楽作品とし

ての戦争映画を作ろうとしただけなのだ。そ

うとわかれば、純粋に自衛隊の活躍を楽しむ

べきだろう。本物の自衛隊が全面協力してい

て、実にカッコいい。そのぶん、ガメラの存在

ががすんでしまったのは少し残念だが、最後

はガメラがキメるし、何より深化した特撮に

は目をみはるものがある。特に、飛行形態か

ら戦闘形態に変形したガメラが建物をなぎ倒

しながら着陸しつつ火球を吐くシーン。それを



▶出番は少ないがカッコ

主張する意図が本作品に

イイぞ。

あるはずもない。冷戦時代にはなしえなかつ

た、イデオロギーとは無縁の、娯楽作品とし

ての戦争映画を作ろうとしただけなのだ。そ

うとわかれば、純粋に自衛隊の活躍を楽しむ

べきだろう。本物の自衛隊が全面協力してい

て、実にカッコいい。そのぶん、ガメラの存在

ががすんでしまったのは少し残念だが、最後

はガメラがキメるし、何より深化した特撮に

は目をみはるものがある。特に、飛行形態か

ら戦闘形態に変形したガメラが建物をなぎ倒

しながら着陸しつつ火球を吐くシーン。それを

★013★  
『ガメラ3』の物語部分  
の予習復習に最適な作品

怪獣の出でくる恋愛映画『ガメラ3』の前

に金子修介が撮った『恋愛映画』がこの作品。

主人公の女は、気の置けない幼なじみ、突如

あらわれた白馬の王子の二重択一を迫られる。

まあ、物語としてはありがちな話で、下手を

すれば安っぽいドラマに転がりやすい題材で

ある。しかし、そこはさすが金子修介。重厚

かつ丁寧な演出で、『ガメラ』シリーズ同様きつ

ちり魅せる映画

に収まっている。

『ガメラ』の無

邪気さと、『ガ

メラ2』のリア

リティ。この2

つの要素が入り

交じったような

本作品は、ぜひ

『ガメラ3』を

観る前後に鑑賞

してもらいたい。

そう。この映画

の白馬の王子は

『ガメラ3』でい

う怪獣なのだ。



▲カメラがクルクルまわります。

# 近ごろホラーアドベンチャーが豊作でございませう

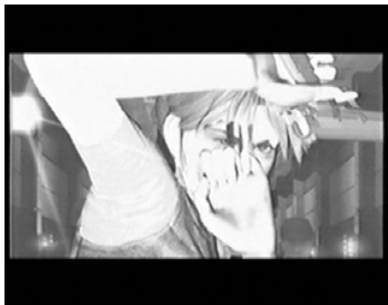
どういいうわけか、ホラー系のゲームには傑作が多い。このジャンルを表現しやすいメディアなのだろうか。

## ☆014☆

バイオハザード  
コード：ペロニカ

### シリーズ&DC 最高傑作が登場

お待たせしました。『バイオ』シリーズ最高傑作のお出ました。PS版の『2』や『3』と比べ、もちろん、画像の表現力は格段に進歩。それも単に映像が綺麗だけでなく、シエームズ



▲ムービーの演出は、なんと佐藤嗣麻子。

本作がシリーズ最高傑作たるゆえんは、映像表現よりもその物語性だ。よく考えてみると『2』『3』の主人公らが活躍するのは、物事が発生し全てが終了しているし、怪物も街中を徘徊してしまっている。でも、本作はちがう。第1作目から続く悲劇の原因を作った張本人が登場し、その人物が抱く恐るべき野望、『今そこにある危機』のために、本作の主人公は奮闘するのだ。さらに、本作にあつて『2』『3』にないもの。それは作品の根底に流れている歪んだ精神、奇形化した思想だ。父親を何十年も地下牢に幽閉。実社会なら倫理に反するような設定がこの作品のもうひとつの魅力なのだ。

## ☆015☆

バイオハザード3  
ラストエスケープ

### もはや定番作品 として定着か？

『バイオハザード』シリーズ3作目のこの作品は、前作に比べシステムやグラフィックに特に大きな変更点は見られず、一見すると小粒な作品にまともな仕上がったのかと錯覚する。だが、第1作目の主人公をブレイヤークャラにしたことで、予想外の効果もたらされた。ゾンビの大量発生という既に経験済みの状況に対処するため、最初からサブマシンガンを携行。射撃の爽快感をゲーム序盤から楽しむことができる。射撃だけでなく体当たりなどの肉弾戦によつて敵に対処できるというシステムは、主人公をより魅力的に表現する。そして何よりも、ゾンビ

がはびこる都市に自分の意志で



▲ゾンビの人口密度も増加。強力な武器を持っているからこそ対処できるというわけ。

身を投じるといふ設定によって運命に翻弄される第1作目から一転、進むべき道を自らの手で切り開いていくという説得力のある動機づけが付与されることとなった。いたずらに外見だけの変更をほどこすのではなく、シリーズで培われた魅力を十分に踏襲しながら、実際にゲームをやり込まないと見えてこない本質的な改善がなされている。この制作姿勢を高く評価したい。おそらくこのシリーズ、定番の作品として定着していくだろう。



◀背景のグラフィックも尋常ではない。

『バイオハザード』シリーズのシステムを踏襲しながら、まったく逆方向に突っ走った作品。その方向性はクリアした後手に入るチェンソーや小型削岩機といった隠し武器に象徴されている。これが『バイオ』ならば、射撃の爽快感を楽しむため、ロケットランチャーやサブマシンガンとなるところだが、そんな「さわやかな」発想は制作者の頭にはない。自分の武器を生体に食い込ませて切り刻んでみたいという、人間の心の奥底に潜むドス黒い欲望を満足させる意図なのだ。通常のプレイで入手できる武器も、ハンドガンやショットガンより鉄パイプのほうが使い勝手が良いという具合。おそろしく『バイオ』シリーズとまともに戦っても勝てないということを制作者は十分に心得ているにちがいない。同時に「ドス黒い欲望」の持ち主がこの世には多いということも……。

## サイレントヒル

☆016☆  
倒錯したドス黒い快感が  
楽しい結構なバイオ作品

## ディノクライシス

☆017☆  
『バイオ』監督が世に  
送り出す新たな恐怖



▶主人公のアクション性は強化されているが……。

『バイオ』シリーズ1作目の監督が送り出すパニックホラー。今回の相手は純重なゾンビなどではなく、俊敏かつ獷猛な恐竜だ。となると、巧みな銃さばきで敵をなぎ倒していくハリバリのアクションを期待してしまっただが、『バイオ』監督は違った。物語の舞台となる研究所に隠された謎を解明するアドベンチャーの部分に力点が置かれているのだ。研究所探索の障害物となる恐竜を射撃する爽快感を楽しむのも可能だが、恐竜は薬で眠らせて、その姿を横目で見ながら、いつ目を覚ますか緊張しながら謎解きをする感覚。それを楽しんでほしいというのが監督の真の意図である。謎はよく練られており、結果的に期待外れの作品とはなっていない。思えば、無邪気に恐竜を撃つだけという作品を作るにはゲームという文化が発展しすぎた。幸か不幸か、ハードの性能とプレイヤーの目が、そんな作品の存在を許さないのだ。

## ディープファイアー

☆018☆  
セガサターン晩期に登場  
した意外な傑作

結局この作品も『バイオ』シリーズのバクリなのだが、受ける印象は微妙に異なる。その原因は、物語の舞台を深海の海底基地に設定したこと。空気がなくなれば一巻の終わりという状況が巧みにゲームのシステムに取り込まれて、何だか本当に息苦しくなってくるような感覚を覚える。また、深海では安全を確保することの方が難しいだろう。あるゆる局面で危機的状況が発生する。このあたりのドラマ部分により重点を置くことで『バイオ』シリーズとの差別味がある。味がある。



このつづきは正式版でお楽しみください。

